

2020年2月7日(金)、芭蕉が住み、奥の細道に出立した地「深川」を巡る街歩きを行いました。この冬一番の冷え込みで朝は寒かったですが、昼は風もなく陽射しもあり、暑く感じるほどの良い一日でした。

街歩きルートは以下の通り。今回の参加者は17名でした。



以下の写真の番号は左図の地点付近での撮影を示します。

上野駅中央改札口前に全員集合し、街歩きに出発。

メトロ銀座線から東西線に乗継、門前仲町から街歩きを開始しました。



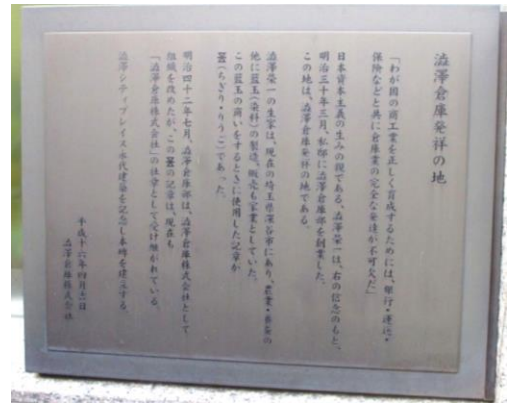
10:35
門前仲町
駅前の道
路地図で
行き先確
認



永代通りを渋澤栄一住居跡(渋澤倉庫)に向け出発



①10:45
 洪澤栄一住居跡(洪澤倉庫発祥の地)碑を見る皆さん。



洪澤倉庫本社ビルロビーの洪澤栄一(青淵)の胸像(深谷の全身像よりいいかも?)



11:00 深川一丁目児童公園にて小休憩



11:04 清澄通りの歩道には白梅がチラホラ、そこにメジロ(色が出なくてゴメン🙇)

清澄通りには映画監督小津安二郎誕生の地もありました。



②11:05 採茶庵跡に到着

出立前の芭蕉さん今日はマフラーで防寒。



③11:10 芭蕉俳句の散歩道



句札が新造されて、ローマ字、絵付きで分かり易くなりました。

下見時は句のみで何と読むのか分からない句もありました。

(左の「夏山に足駄を拝む首途哉」は「なつやまに あしだをおがむ かどでかな」だそうです。

かどで 首途 って読めませんよね)



古い句札



④11:20

清澄公園内の江戸風時計塔



④11:25 清澄庭園全景(中央はあずまや、その左の小山は富士山と呼ばれる)



清澄庭園

享保年間(1716~1736年)に、下総国関宿の藩主・久世大和守の下屋敷となり、その後江戸の豪商・紀伊國屋文左衛門の屋敷跡と言い伝えられています。

明治11年、岩崎弥太郎が荒廃していたこの邸地を買い取り、社員の慰安や貴賓を招待する場所として庭園造成を計画、明治13年に「深川親睦園」として竣工しました。

④11:45 清澄庭園湖畔にて集合写真

12:10 時間の都合で昼食と江戸資料館見学を交替し、先に昼食へ(深川釜匠)
各テーブルには3種の漬物が用意され自由に食べられます。



深川丼: アサリのみそ汁の上に黄身が浮かんでいるように見える。中身は、ごはん、長ネギ、油揚げ、アサリで、黄身が2個鎮座

深川めし: これはアサリ出汁の炊き込みごはん、量も多く、用意されたラップに包んで持ち帰った方も多かったようです。

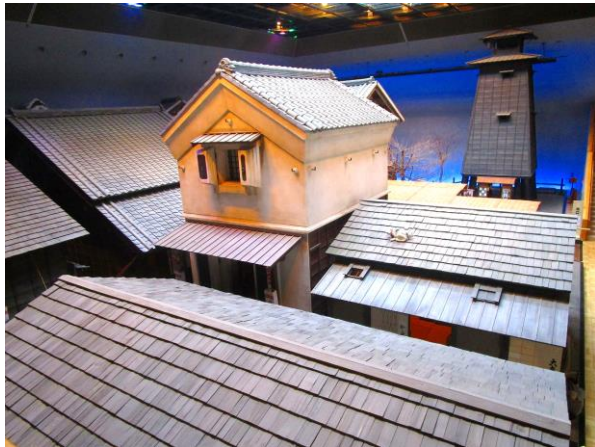


注文した料理が出てくるまで暫し、歓談！

⑤13:10 深川江戸資料館



入館後、ボランティアの方から概要説明を受ける。



深川江戸資料館

地下1階から地上2階、三層に渡る高い吹抜けの大空間に展開する江戸時代の深川の町。江戸時代後期、天保年間頃の深川佐賀町の街並みを再現した展示



江東区登録有形文化財（歴史資料）
清澄三丁目一六 臨川寺

玄武仏碑

延宝八年（一六八〇）に深川に移り住んだ松尾芭蕉は、仏頂和尚と親交が厚く、たびたび参禅に通つたと伝えられています。芭蕉の号「桃青」も仏頂和尚によるものといわれています。以来、芭蕉ゆかりの寺として玄武仏碑をはじめ、梅花仏碑・墨直しの碑・芭蕉由緒の碑などが残されています。

芭蕉由緒の碑は、美濃派の俳人神谷玄武坊（玄武仏、寛政一〇年（一七九八）没）を顕彰するために門下の山田下達中が建てたものです。玄武坊は芭蕉門下の各務支考（梅花仏）が京都双林寺に建てた芭蕉墨直しの墨跡を写した碑を臨川寺に建て、毎年三月に墨直会を催して芭蕉をしのぐといわれています。また玄武坊は梅花仏碑も建てたといわれ、芭蕉と美濃派の顕彰に尽くしました。

平成二六年六月
江東区教育委員会

⑥13:20

臨川寺

延宝8年

(1680) 深川に移り住んだ松尾芭蕉は二歳年上の仏頂禅師の人柄に感服し、足繁く参禅するようになりました。まだ宗房と称していた芭蕉



は、禅師と禅問答から得たとされる俳号が「桃青」、その後天和元年(1681)、38歳の時に「芭蕉」となりました。「玄武仏碑」をはじめ、「梅花仏碑」「墨直しの碑」「芭蕉由緒の碑」などの石碑が残され芭蕉ゆかりの寺として知られています。

⑦13:25 横綱通り

相撲部屋が多く、通り道には「鋸山部屋」など、大きなビルになっている。



大鵬ビルの看板

大鵬ビル入口横には「大鵬」の胸像



隣のビルは旧大鵬部屋を引き継いだ「大嶽部屋」のビルがありました。

⑧13:30 万年橋



万年橋

江戸時代には、富士山がきれいに見える名所として知られ、北斎の「富嶽三十六景・深川万年橋下」や広重の「名所江戸百景・深川万年橋」などに描かれました。現在の鋼橋は昭和5年(1930)に震災復興橋として架けられたもの。



⑩14:00 隅田川テラスへ 後方は万年橋



後方は清洲橋 隅田川東岸のテラスより





⑪14:10

芭蕉記念館

隅田川堤防側(裏口)より入館

帰途の電車時間もあり、時間が15分ほどしかなかったため
内部でVTRを見る方、駆け足で展示物を見る方で時間調節
をして頂いた。

今期一番冷え込みとの予報から、皆さん防寒対策をしっかりと朝集合して頂きました。予報通り熊谷地方は-4℃と冷え込みましたが、東京へ到着した時は、風もなく日向では暖かく感じるほどで、街歩き日和に恵まれました。

全体の行程が少し忙しかったかとは思いますが、芭蕉が住み、奥の細道紀行へ出立した地「深川」、そして芭蕉が生きた頃の「深川」に思いを馳せながら、足跡を辿ることが出来たかと思えます。

また「あさり」たっぷりの「深川めし」、「深川丼」も十分に堪能できたかと思えます。

皆様のご協力のお陰で、大きなトラブルもなく無事に実施できましたこと、幹事グループより感謝申し上げます。

参加の皆様、大変お疲れさまでした。

次回は、3月6日(金)「天覧山、多峯主山ハイキングと総会」が美術工芸科の担当で開催されます。多数の皆様参加をお待ちしております。

記:加藤 治朗(ふる伝)